



(稲積オオヤチ古墳群から富山湾を望む)

新しい「尼塚」 - WEB版 - 「富大考古通信」のスタート

2006年7月に発行した『尼塚』 - ペーパー版 - 第66号(最終号)でもお知らせしたように、今回から「尼塚」は「富大考古通信」と名を変え、研究室のHP(ホームページ)上にアップ(掲載)されるようになりました。

ペーパー版『尼塚』は、1981年の第1期生卒業頃の発刊なので、実に25年の長きにわたり、考古学研究室とOBの方々との間をつなぐ連絡誌の役割を果たしてきました。考古学研究室の活動の様子を紹介・報告することが中心でしたが、時にはOBからの提言なども掲載され、楽しくも充実した内容だったと思います。

しかし時代の流れというか、「イノベーション(技術革新)」の成果というか、最近では広くパソコンが普及し、HPの閲覧も日常茶飯事として当たり前のことになりました。研究室の学生達も、卒論執筆はもちろんこと、日常的なレジュメ作成にもパソコンを利用し、その使用に習熟しはじめています。研究室の活動報告やOBとの連絡に、身近でかつスピーディーなこの利器を利用しない手はありません。ということで今回から、思い切ってWEB版に切りかえた次第です。

研究室紹介連絡誌『尼塚』は前回の66号をもって終了しましたが、その目的や精神などはこの新しいHP「富大考古通信」に引き継がれます。しかし新しい取り組みのために、手違いなどでご迷惑をかけるかも知れません。しばらくは温かい目で見守っていただきたいと思います。今後とも、富山大学考古学研究室にご支援とご助力をいただけますようお願いして、WEB版「富大考古通信」スタートのご挨拶といたします。

(黒崎 直)





夏の測量調査の感想



2回生の私にとって今回の測量調査は楽しみでもあり不安でもあった。調査現場が丘陵上にあるため荷物を運びながら斜面を歩かなくてはならず、毎回の登り下りがとても疲れた。測量調査は考古学実習で行った測量とは全く違った。スタッフと平板の間に何本も木があるためエスロンを上手く張る事ができず、測量のスピードが速いためマイラーにどんどん点が落とされ、コンターラインを結ぶ時に正しくつなげているか困惑した。私はエスロンの張り方もレヴェルの操作も上手くなく、平板も設置できず班員の方々に迷惑ばかりかけていた。そのため、調査期間中は少しでも注意されないよう行動する事で精一杯だった。こうして今回の調査は無事に終了したが、私自身は失敗ばかりの調査だった。今年の調査は指示に従うだけでよかったが、来年の調査では指揮する立場になるため不安である。また、来年の調査までに平板の設置を上達させる事は絶対だ。

(坂田裕之)

考古学研究室の夏の大事な仕事とも言える発掘調査に我々2年生も参加しました。今回は測量だけということで1週間という短い期間ではありましたが、様々経験をつむことができました。調査は真夏の晴天の中で行われることもあり、疲労は激しく、しかし、それよりも辛かった事は漆に被れたことでしょうか。この被れにより初日に病院送りになるという不名誉な経験も致しましたが、今となっては良い思い出です。このような状況の中で、何よりも助けとなっていたのは大先輩である院生の小林先輩の存在です。この方は院生という大御所の身分でありながら我等5班のヘルプとして全体をして指揮し、また御自分も率先して伐採など仕事に取り組んでおられ、その姿に感動すら覚えました。そして、自分の未熟さを認識すると共に、いつの日か小林先輩のようになりたいと心に秘め、今年の調査を終えました。来年ももう少しましな働きができるようにがんばりたいと思います。

(細丸善弘)

2006 年度調査の中間報告について

今年の夏に行われた測量調査の中間報告(『氷見市稲積オオヤチ A1 号墳 - 第一次調査の中間報告 』)が、富山大学人文学部考古学研究室のホームページからダウンロードできるようになりました。トップページ、もしくは「発掘調査の成果」のページからダウンロードできます。

編集後記

秋も深まり朝夕冷え込むようになりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？ 先日、2年生から3年生に係の引き継ぎがあり、尼塚係も世代交代しました。新役の横幕です。これからは富大考古通信として、ホームページとともに内容の充実を図っていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

さて、現在研究室では4年生や3年生の方々は卒論や夏の調査の報告書作り、2年生は分調の報告書作りとそれぞれ忙しい毎日を送っています。僕たち2年生は初めての大きな仕事となるので、しっかりやり遂げたいです。

今週は秋の球技大会が催されます。たぶん日頃の運動不足から終わった後に体中が悲鳴をあげることになると思いますが、精一杯戦ってきます！みなさんもスポーツの秋を堪能しましょう！！

(横幕)

富大考古通信 創刊号

配信日 2006年10月31日

編集・配信 富山大学人文学部考古学研究室

住所 930-8555 富山市五福 3190

TEL 076-445-6195

留守番アクセス 4000 BOX 番号 6195

HP <http://www.geocities.jp/tomidaikouko/>

メール tomidaikouko@yahoo.co.jp



メールつきましては、迷惑メールと区別するためタイトルに必ず「富山大学考古学研究室」と入力して下さい。ご協力よろしくお願いいたします。